

2018年8月27日掲載

口腔健康管理

専門的処置と自己ケア

最近、<sup>こうくう</sup>口腔ケアという言葉をよく聞くようになりました。口腔ケアは健康を維持するためには必須で、さまざまな全身疾患の予防や軽減につながります。しかし、口腔ケアという言葉は極めてあいまいで、最近では「口腔健康管理」という言葉が使われるようになりました。

口腔健康管理は、口腔機能管理、口腔衛生管理、口腔ケアの3つに分かれ、口腔に関するさまざまな管理を整理しています。口腔機能管理とはむし歯や歯周病の治療を通して機能を維持することを指し、抜歯を含む治療後の差し歯や入れ歯の作製、さらには摂食<sup>えんげ</sup>嚥下機能に対するリハビリなどが該当します。

口腔衛生管理はこれらの治療により、改善した口腔内の細菌のバランスをコントロールすることが主たる管理となります。口腔内の細菌は、善玉菌と悪玉菌のバランスで成り立っています。そのバランスが崩れることによりさまざまな全身疾患にもつながっていることが分かっています。それを予防するためには患者さん本人だけのケアでは不十分なため、専門的な管理が必要となります。

もちろん、患者さん自身の管理も重要で、歯科医院などでの指導のもとに歯ブラシなどを使う口腔<sup>せいしき</sup>清拭、入れ歯の管理、さらには摂食嚥下体操や唾液腺マッサージなどを正しく行なうことを口腔ケアと呼ぶようになりました。